

【氏名】 林 英昭

【所属大学院】 早稲田大学大学院 理工学研究科

【研究題目】

ヴェトナム・フエの伝統的住宅建築の設計方法と建築技法

－ 失われゆく伝統的技術の記録と継承 －

【研究の目的】

ヴェトナム中部の都市フエには、ユネスコ世界文化遺産に登録された「フエの建造物群」（1993年登録）を始めとして、ヴェトナム最期の王朝である阮朝を偲ぶ文化遺産が数多く残されている。しかしながら継続的な維持管理を前提とする木造建造物にとって、不幸な時期が長く続き、荒廃した遺跡も少なくない。近年、フエの建造物群に対する日越ならびに諸外国共同の保存修復活動が活発化してきており、本研究はそうした文化遺産の保存修復活動の一翼を担うべき基礎研究として行われた。

本研究では、現地の伝統的技術保持者（大工棟梁）に伝統的住宅建築の模型制作を依頼。その制作工程を分析し、フエにおける伝統的建築技法の解明を第一の目的とした。また、模型の制作工程を発注から完成に至るまで、実際の住宅建築の制作工程に即して一連の記録として留めることで、失われつつある伝統的技術の保全を目指し、これを第二の目的とした。

【研究の内容・方法】

本研究では、ヴェトナム・フエの伝統的技術保持者（大工棟梁）に伝統的住宅建築の模型制作（縮尺：1/5）を依頼した。

制作発注に先行して、発注すべき大工棟梁ならびに住宅規模・類型を見出すために現地の伝統的住宅建築に関する知見を整理した。結果、当地における伝統的な大工道具（脇尺：Thuoc Nach）の使い手であり、フエ近郊在住の現役大工棟梁に依頼。規模に関しては、大工棟梁とも相談の上、標準的な規模である三間二庇（Nha 3 gian 2 chai kep）を選択した。また類型として主屋の前に小さな小屋を並べ建てる向拝付住宅（Nha Ruong-Vo Cua）を依頼。これはフエの主要な宮殿建築が二連棟式と呼ばれる、二つの建物を並べ建てる形式を標準とすることと、予てより指摘されてきた宮殿と住宅の架構の類似性に関してより具体的な知見を得たいという意図からの発注である（向拝付住宅自体は伝統的にフエの住宅の一型式として存在し、今回の大工棟梁の技術の範疇であり、現地にて同型式の遺構も確認されている）。

模型制作の過程では、当地の伝統的な住宅建築の設計方法、建築技法を明らかにするために、発注から設計、施工に至るまで一連の制作工程を写真撮影、映像記録、野帳作成により記録した。また板図・部材の制作と並行して大工棟梁に対する聞き取り調査を行うことで、柱

間, 柱転び, 柱高さ, 屋根勾配, 軒反り等の寸法決定法を確認・分析し, 当地の伝統的住宅建築の設計技法の特徴を整理した.

【結論・考察】

本調査研究を通して, フエの伝統的住宅建築の技術に関する幾つかの知見を得た. まず中央間の梁行断面の設計が肝要であり, 各柱間は主屋身舎柱間を基に決定され, いずれの数値も十二直(歴注のひとつ)を順守すること, 屋根勾配は脇尺で決められ, 柱高さは屋根勾配を一定として, いずれの柱からも決定可能であること, また柱高さ寸法の十二直の扱いは梁行断面設計の最後に地盤高を調整することで処理でき, 設計上の優先度としては配慮が薄いこと, 柱転びは主屋身舎柱間の大梁墨と柱墨の交点を中心に足下を開くこと等が確認された. フエの伝統的住宅建築においては, 柱元から寸法計画を進めるのではなく, 主屋身舎柱間の大梁を中心として始まる柱一大梁一斜梁など屋根架構および梁行断面を先行させて設計を行う点が, 設計技法上の大きな特徴と言えるであろう.

現在(2005年12月), 制作した模型は解体し保存処理を加えた上で現地にて保管している. 今後, 当地の伝統的大工技術の研究資料として更なる活用が可能である. 現地における歴史文化の啓蒙的媒体としての活用も視野に入れ, 現地の保存組織と活用方法, 設置場所等について協議中である.